

“魂を叫ぼう “モヤモヤ感をさらけ出せ！”
ラップ(Rap)を通して人権を考える場及びそのノウハウの構築

1 取組の目的・全体像

「ラップ(Rap)を通して人権を考え、属性を超えたコミュニティの活性化につなげる」ことを目的とする。

- ・「人権」は、当事者である普通の人々が自分事として捉えることが難しい抽象的・社会的概念である。
- ・よって、子ども、障がい者、高齢者、LGBTQ、DV と様々な人が暮らしの中で「誰からも手を差し伸べられないこと」「他者からのイヤなこと」等に悩んだり、声を上げられないことで、結局1人で悩んでいる状況に置かれていることがある。
- ・また私たち自身もそれらの状況に気づかないことがある。

本事業では、取り残されがちな人たちが「自分の言葉」で表現し、自分の置かれている状況を認識、人に伝えることができるようになること、本人も、私たち市民も自分事と感ぜられること、ひいては、人権を大切に作る輪をこの三鷹で広げることを目指します。

ワークショップに共感した方々が自主的に次に繋げていけるように、ワークショップの経験をノウハウにまとめ、私たちがサポートし、また、互いにサポートし合える関係性を持ったグループの輪を三鷹らしく広げていきます。

2 取組のポイント

- (1) 方法：参加した人が体験できるワークショップ形式とする。
- (2) 講師：事業の目的に共感していただけるラッパーFUNI さん紹介
少年院で収監されている少年たちや、在日コリアン、など社会で差別や苦しみを持った人たちに Rap を通して自分を見つめてもらう活動を長く行っている。本事業の実施前に講師よりレクチャーを受けた。
- (3) 日時（3回実施）・参加者数
 - ①令和5年1月21日（土）午前 9名
 - ②令和5年2月18日（土）午前 13名
 - ③令和5年2月18日（土）午後 9名
- (4) 本事業のポイント
 - ・誰もが、楽しく参加できること。
 - ・ワークショップ形式で実施することで、自分ひとりではなく、様々な人たちが悩んでいると気づき、共感を得ること
 - ・共感を得ることで他者へのまなざしを学ぶこと
 - ・そのノウハウをまとめ、継続していくことで、「Rap を通して人権を考え、属性を超えた輪があちこちに広がり、「誰もが取り残されない三鷹」の活動へつなげて

いくこと

- ・「誰でも参加できる」ことを目指して、プログラムを設定

(5) 当日の流れ

- ①MC ネームを決める
- ②自分のストーリーを語る
- ③ストーリーをリズムに乗せる
- ④レコーディング
- ⑤参加者でシェアする

3 取組の成果

- (1) 「一人十色をラップで会」主催事業の「ラップのリズムで自分を語ろう体験」
3回開催。多様性のある人々の参加が実現した。

(2) 募集にあたって

国際交流・国際協力活動を推進するアジア・アフリカ語学院、三鷹市市民協働センター、マチコエ、各コミセン、三鷹市ネットワーク大学、生涯学習センター、三鷹市駅頭などの公益、パブリックな窓口や三鷹市民に特化したコミュニティのFB等に告知した際に、新しい視点でレアな企画に高い評価があり、こうした市民活動を長期にわたって支援してきた三鷹市への安心感と好感から幅広い属性を持つ参加が得られた。

- (3) 参加者の声・結果(参加者のラップの発表内容及び実施後アンケート:27名回答/参加31名)

ア 参加の感想

楽しかった 23名、面白かった 22名、恥ずかしかった 10名、
リズムにのれた 7名

→参加者からは、ポジティブな感想を多く得られた。

イ 次回の参加意向：参加したい 23名、参加しないと思う 0名

→次も参加したい人が多く、リピーターの中からリーダー育成の芽が得られた。

ウ 6才～82才まで、障害のある人、引きこもり経験のある人、DV経験者、外国人等、三鷹市の多様性を凝縮したような多様な方々の参加を得られた。

エ 他の自治体ではなかなかない場であり、普段は誰にも吐露できない心の中を話す場を三鷹市の支援で得られた満足感、愛市意識、三鷹市ブランドにつながった。

→アジア・アフリカ語学院からの参加者は、日本に来た当初、日本語ができずコミュニティに溶け込めなくて辛かった思いが、ようやく声に出して語れた等の話があった。

→三鷹に長く住んでいて家事・育児・パートでヘトヘト、夫からのモラハラで誰にもSOSが出せないことを、この場で発露できた。

→三鷹生まれ育ちの82才、引っ込み思案で今でも頑張るしかないのか。。。と

いう本音を初めて出すことができた。
等、三鷹市民の声なき声が発露できた。

オ 自由回答(要約)

- ・自己肯定感が高まった。自己表現できた。自分を再発見できた。
- ・老若男女、誰でも体1つで参加できる場。
- ・他の人と人生体験をシェアでき救われた。
- ・小中学校、高校などでして欲しい。
- ・Rap ができる場・環境が大切と感じた。

カ 成果

年齢、性別、障がい者、引きこもり経験者、外国人、DV 経験者等、多様な人の参加を実現。

市や各種サポート団体にも相談できなかった潜在的な悩みを掬い取る場を設けてくれた三鷹市への愛市意識につながった。

自己を開放し、他人への共感を得、リピートしたい、更に広げたいと感じれた三鷹らしい活動となった。

自己発見・自己肯定感のアップを得られた。

他の人の体験を知り共感を得られた。

小中学校、高校での導入希望

⇒他市ではあまり聞かれないユニークな活動を継続することで、「どこの自治体にもない三鷹らしさ」「誇れる三鷹市」につながっていくと思われる。

キ 当日の様子



1月21日(土)AM



2月18日AM



2月18日PM

4 次年度以降の取組について

(1) 課題：事業決定から報告までの期間が短く、講師とのスケジュール調整や参加者集めにやや苦勞した。広報や周知などが課題である。

→学校窓口や障がい者サポート事業体、地域コミュニティなどの諸団体との連携など、更なる周知・輪を広げる工夫が必要と考える。

(2) 展望：参加者の口コミなどを通じ、「Rap で自分を開放する良さ」が広がっていくと思われる。また、リピート参加希望者を集めて、リーダー育成をしていき、参加経験者から三鷹らしい活動が考えられる。又、他の自治体にはない事業を継続することで三鷹市民の誇りの醸成。

<取り組みの報告を受けた選考委員会からの主な意見（助言等）>

- ・一定の成果があったと感じるため、参加者の意思を尊重しつつも、今回限りの関係性ではなく継続した関係を築いていけると良い。
- ・参加のハードルが高くならないためにも、参加の申込時には連絡先を聞き取る必要はないと思われる。今回のような場を作ること自体が三鷹らしさに繋がっていくことがあるかもしれない。
- ・今回はラップを活用した取り組みだったが、手拍子やドラムのバチを使うといった形でも思いを表現するサポートになる。ファシリテーターの役割も重要になるため、継続していけるよう工夫して取り組んでいけると良い。